

知財の広場

三重県出身の相談員が見る「甲賀と伊賀」―地域知財

私は三重県津市の出身で、この春から滋賀県発明協会では相談員を務めています。地元に近い滋賀で活動する中で、滋賀と三重の境界に位置する「甲賀」と「伊賀」が、実は知財の視点で非常に豊かな地域であることを改めて感じています。

甲賀と伊賀といえば、まず思い浮かぶのは“忍者”のイメージです。しかし、忍者という言葉そのものは一般名称であり、商標として独占することはできません。一方で、伊賀牛や甲賀もち、信楽焼など、地域団体商標や地理的表示（GI）として保護されている産品は多く、地域ブランドの形成に知財制度が深く関わっています。

また、甲賀の薬業に見られる行商の仕組みや包装デザイン、伊賀焼の技術など、伝統産業には営業秘密や意匠など、現代の知財制度に通じる要素が多く存在します。歴史と技術が重なり合う地域だからこそ、知財の観点で読み解く面白さがあります。

今回から数回にわたり、甲賀と伊賀を題材に、地域に根ざした知財の魅力を紹介していきます。

甲賀 ⇄ 伊賀
(こうか) (いが)

意外と三重県民は**こうが**と呼ばれる人が多いです。粘菌の研究で著名な南方熊楠をくまくす（正式にはくま**く**す）と読まれる方も多いのでは？
次回からは以下の候補から紹介していきます。

忍者ブランド
(一般名称と地域ブランド)

信楽焼・伊賀焼
意匠・地理的表示 (GI)

くすり文化
営業秘密・パッケージデザイン

忍者の情報戦
秘密管理 (情報の収集・秘匿)

INPIT 滋賀県知財総合支援窓口 支援担当者 松田 太